

ベトナム最新ファッション事情

石川 幸

皆様はベトナムでは人々が普段どのような服を着ているか、ご存知でしょうか？

ベトナムにまだお越しになったことのない日本人の方の中には、「ベトナム人は伝統的なアオザイを日常的に着ているのでは？」といったイメージを持たれている方も、いらっしゃるかもしれません。確かに、未だにアオザイは大半のベトナム人が所有し着ることはありますが、それは冠婚葬祭や学校の制服、もしくはドレスコードが規定されている銀行や高級ホテル等に限った話であり、日常的にアオザイを着る人は非常に少ないと言えます。

一昔前までは道行く女性の大半がアオザイを着ていたベトナムですが、現在は日常的でなく、特別な時にのみ着用されるようになった理由の一つとして、海外のファッション文化が急速にベトナムに流入してきたことが挙げられます。

<ホーチミン市の人気のファッション街>

発展著しい新興国らしく、現在ホーチミン市には外資・地場系を問わず多くのアパレルショップが存在しており、ファッション好きの若者を中心に大きな賑わいをみせております。

下記は、ホーチミン市の代表的なファッション街になります。

① グエンチャイ通り

ホーチミン市の竹下通り（原宿）と呼ばれており、地場系の個人店を中心に100軒以上のアパレルショップが軒を連ねています。

② サイゴンスクエア

大型の低層建物内に2㎡前後の店舗が所せましと出店しています。商品の価格も安いいため、旅行者やベトナム人学生などで常に混雑しています。大半の衣服がブランドの類似品であるため、購入には注意が必要です。

③ イオンモール

ホーチミン市近郊に3店舗を構えるお馴染みの日系ショッピングモールです。店内には日本でも販売されているトップバリュ（イオンのプライベートブランド）商品も販売されており、中間層以上のベトナム人から支持を得ています。その他、若者でも手が届きやすい中価格帯のアパレルショップも多数出店しています。

④ サイゴンセンター

ホーチミン市中心地に位置しており、ベトナム人・旅行者を問わず多くの買い物客が訪れています。価格帯も市内では上位に位置し、イタリアのアルマーニ エクスチェンジ (Armani Exchange) やフランスのケンゾー (Kenzo) などといった高級ブランドも軒を連ねます。

⑤ ビンコムセンター

ホーチミン市内で最も有名な商業施設です。スペインのマンゴー (Mango) やザラ (Zara)、ストラディバリウス (Stradivarius)、アメリカのギャップ (Gap) やオールドネイビー (Old navy)、イギリスのマークスアンドスペンサー (Marks & Spencer) など、世界各国のブランドが出店しており、名実ともにホーチミンのファッション文化の中心地と言えます。

2017年9月9日には売上高世界第2位のスウェーデンのH&Mが同施設内にベトナム初出店を果たしており、開店初日には1万人余りもの客が殺到したことでベトナムで大きな話題となりました。

<アパレル市場としての今後>

ベトナムは縫製業を得意としており、H&M やユニクロ、ギャップ、ザラ等の製造を手掛けていましたが、価格水準的にも、そして文化的にもマッチングがされていなかったのか、今まで販売にまでは至りませんでした。しかし、経済発展に伴いベトナム人の生活水準が向上し、かつ海外の文化の流入もここ数年の外資企業の進出により促されたためか、徐々にではありますが世界的なアパレルブランドが市場としてのベトナムへの進出を検討しています。

広島に 1 号店を出店したユニクロもベトナムでの販売事業展開を進めているようで、親日ベトナム人から大きな期待を集めています。

今後も、ベトナムは高い成長率を維持したまま経済発展を続けていく事が予想されますが、これらを通じて人々の生活水準が向上し、今よりも衣服などにもお金を割ける時代が来ることが予想されます。そのような意味では、ベトナムのアパレル業界の未来は大いに期待できるものなのかもしれません。